



第47回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、上杉 弘幸さんにご紹介いただいたこの方は、「いつも笑顔で、仕事熱心なスゴイ人」とのこと。インタビュアーは江藤 裕一でお届けします。

【今回のスゴイ人】

メセナ食彩センター
木原 貴之さん



今

回は末吉町にあるメセナ食彩センター工場長の木原貴之さんにお話を伺いました。木原さんは末吉の出身で高校を卒業後、都城に住み、飲食関係の仕事をしました。35歳の時に、知り合いからの紹介でメセナ食彩センターへ就職しました。

就職した当初、上司から「全部やってもらうから、仕事を全部覚えていくように」と言われ、ゆずの搾汁などの現場から営業、商品の製造など様々な職種を経験していききました。

「すべてが初めての経験だったのでわからないことがたくさんあって、クッソーと思うこともありましたが、それをバネにし、やる気にしていきました」

製造をしていた頃はまだ設備が古くボイラーの熱気で夏場は40度を超える暑さでひどいときは長靴の中に汗がたまってくるほどだったそうです。

5年前に九州・山口道の駅ドレッ

シング選手権で第一位を獲得したノンオイルドレッシングをブラッシュアップし、新商品として末吉ゆずごまドレッシングを発売。レシピから考えた商品が世に出ていくことが楽しかったと話してくれました。新たに「ゆずせんべい（ゆず胡椒味）」も誕生し、10月から販売しています。

今では工場長となり、後輩の育成にも力を入れています。製造・営業の他、何の仕事をしてても自分で仕事が楽しくなることを見つけてほしいと教えてくれました。

現在は「皆さんに安心安全な商品をお届けしたい」という想いから国際規格であるISO22000（製品サービスに関して同じ品質を提供できるようにし、一定の食の安全を守るための仕組み）の認証を目指し、その書類作成や現場対応に追われています。

曾於市のゆずを広めるために、前向きな姿から地域への想いへと繋がっていつていると感じました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

できない悔しさをやる気というバネにし、曾於市のゆずを世に出していくという強い想いを持つ木原さん。後輩の育成という先々を考えて前に進んでいくことも大事だと感じました。



協力隊の今日この頃

11月に入り曾於市へきて一年半が経過し、地域おこし協力隊として任期である3年の折り返し地点になりました。

これまでは起業や広告・商品開発・ホームページなど起業に関することや、移住に関することをメインに活動しつつ、最近ではコロナ対策ポスター事業のお手伝いなどさせていたきました。

5月からは8月24日にオープンした曾於市テレワーク・起業創業施設「シゴトバ3ラボ」の立ち上げのため、改装に関することや備品などの準備に追われていました。

これからは曾於市テレワーク・起業創業施設「シゴトバ3ラボ」を拠点とし、曾於市の皆さんが活用していただけるよう、また役立てるように対応をしていきます。アイデアについてお話しして、それをカタチへとつくるお手伝いをさせていただきま。誰でもお気軽に、来ていただけたらと思います。

最新情報は…

シゴトバ3ラボの公式SNSをチェック！

